## 意見交換の概要
## （令和元年８月２日（金）・南予地方局八幡浜支局）

### １．リーダーとしてのあるべき姿について

今回知事とお話をさせていただくに際して、知事のこれまで取られた活動、政策について調べていると、ビッグデータを活用した婚活事業、中学生以下を対象としたジョブチャレンジのＵ－15 など県が抱えるさまざまな問題を、１つ１つに対して隅々まで目を通して解決策をなさっているなと感じた。

僕はそのような知事の県民を思った積極性、決断力に憧れていて、リーダーとしてあるべき姿を見させていただけるように感じる。

どんな課題にも賛否両論がある中で、知事のように多角的な視点を持って責任を伴う中で勇気を持って決断できる人になるにはどうしたらいいか。高校時代のエピソードを踏まえて教えてください。

**【知事】**

非常に難しい質問なんだけど、僕は決して順風満帆でも何でもなくて、ともかく好奇心の塊のような人生を送ってきたつもりなんですね。そういうふうな好奇心っていうのはチャレンジ精神を呼び起こすんで、いろんなことにトライを続けてきました。となると成功ばっかりなわけがないですね。大きな失敗も経験してますし、ただその失敗、特に若いうちっていうのは、失敗してもやり直しがきくっていうのが若さの特権だと思うんですよね。そこを恐れてしまうかアグレッシブにいくかで人生って随分変わるんじゃないかなっていうふうには個人的には思います。もちろん、大きな失敗なんか経験しないほうがいいとは思うけども、例えば失敗したときに悔やんでしまうのか、それともそれを生かそうとするのかによって、その先の道っていうのはがらりと変わっていくわけ。思うことは上を向いても下を向いても現実は変わらない、ということ。失敗したとしても、だとすれば上向いたほうがええなと。例えば、よく職員にも言うんだけども、失敗っていうのはチャンスだと。もちろん怒られる。そういうときは「ごめんなさい。」って素直に謝って、すぐに対処をして、それを分析して、二度と同じ失敗が繰り返されないような仕組みを打てば、その結果は成長じゃないですか。そういう考えで失敗に向き合えばいいんじゃないかな。ただそれが怒られたくないな、とかいって隠してしまうと、どんどん傷は深くなる。例えば今日対処すれば１の力で回復できたものが、１週間ずらしてしまうと、同じ回復という結果を目指すにしても 10 の力が必要になってしまう。１カ月先延ばしたら 100 の力が必要になってしまう。そういうものなんですね。ですから好奇心からくるチャレンジ精神、その中で失敗したときにアグレッシブ。こういったことを特に若いときは経験したかなというふうな感じがします。

その上で今の仕事を振り返ったときに、ほんとに一番楽なのは何もしないこと。何もしなければ新しいことにチャレンジしないから賛否両論の渦の中に身を置く必要性はなくなるので、結果は良くないんだけども楽です。何もしないということ。でも、それでも人生どうせ 70 年ぐらいのガチの人生だったら面白くないから、好奇心でいろんなとこに、今情報のアンテナを張り巡らしてる。いいなって思ったことはともかく確信が持てたらやる。確信が持てたら、やる決断をしたあとに大事なことは、責任は取るという覚悟をつくることと、すぐに結果が出なくても粘ることだろうと思うんですね。例えば、今日運動やってる子も多いと思うんだけど、僕も運動選手だったんだけど、スポーツっていうのは右肩上がりにうまくは絶対ならない。今日練習したら明日になったら強くなった。翌日になったらさらに強くなった。なんてことは絶対ないです。地道な地道なトレーニングをずっと繰り返して、それでも結果は全然出ない。場合によったら下降するときもある。疲れて。でもそこで、こんなに努力しても強くならないんだったらやめた、ってやめ

るのも１つの選択。でもここで、それを乗り越えたときにある瞬間ぴょんと上がる。あっていうときにピョンと上がる。そしてまた同じようにじっと続いてまたポンて上がる。この繰り返し。右肩上がりの成長っていうのはなくて、段階を踏んで強くなっていくっていうのがスポーツの世界だと思うのね。だから物事やっていくときに、結果が出なくてもそこで我慢できるかどうかっていうのは、すごく大事だと思います。

最後に、自分もいろいろ考えて愛媛県にとって良かれと思っていろんなことやろうとするんだけども、経験則でいうと６：４の法則。結構自信満々にこういうことやりますって打ち出すと、６割が賛同してくれます。４割はだいたい反対なんです。でもその４割の反対の声の中には、情報が不足していて届いてなくて反対してる人もいる。あるいは、いいんだけどここはちょっとね、っていう部分的反対の人もいる。ここさえちょっと改善してくれたら賛成できるのにねっていう人たちもいて。そこが粘り強さのポイントになるんだけども、しっかりと情報を提供をし続ける、話し合いをし続ける。そしてもう１つは、それはいい改善の提案だなと思ったら素直に受け入れて改善する。そういうことを粘り強くやっていくと最終的に６：４の賛成反対が、７：３になり８：２になる。ただ、世の中にはいろんな考え方の人がいるから、何があっても反対したいという人もいらっしゃる。これもまたしょうがない。人の考えだから。そのときに決断しないといけない。とことんやったと、でもこれ以上は無理だと思ったときは、自分が責任取るからＧＯだと言って、その２割の人の反対を背負う形でＧＯサインを出すというような繰り返し。そんなことをやりながら新しい事業を起こしています。以上です。

**２．街灯の設置について**

自分は東京に住んでいるが、今は（愛媛の）高校に来て寮生活をしている。

愛媛は東京と比べると、街灯が少し少ないように感じて、住宅街などでも真っ暗で、夜のジョギングとかも全くできないんじゃないかなって思うくらい暗いんですが、そういうところに関してはどうお考えか、お伺いしたい。

**【知事】**

そうね、東京のように人口が増え続けているっていうところってのは、人がたくさんいて、企業がたくさんあるんで、お金が潤沢にあるんで、いろんなことができるんだけども、どうしても地方の場合は、そこまでの手当てができないっていう限界はあると思うんですね。ただ、それが全ていいとは言わないけれども、時折逆の発想をするときもある。例えば、愛媛県では道路が整備されていて、昼の場合ね、交通量が少ない。イコール自転車にはいいなっていう発想したり、あるいは島しょ部行ったら、「いや知事うちの島なんか信号が１つもないんよ。」「そしたらサイクリングには最高の環境ですな。」という発想をします。そういう弱点を長所に変えていくっていう視点も、時折必要になってくるかなというふうに思います。でもそれ以上に、例えば東京だったら分かるとおり、僕は東京長かったんだけど、まあ大変だった、社会人のときは。通勤時間で１時間半ぐらい満員電車に揺られて、コンクリートジャングルで、ふらふらになって、今は働き方改革でないけども、毎晩朝まで残業してっていう繰り返しの人生だったんで、ともかくあの生活もう１回やれって言われてももう二度とやらない。例えば松山で言えば、日本で最も通勤時間が短い町。日本で最も住居費が安い町。日本で最も余暇時間が長い町。これデータ的に全部出てる。幸せの基準考えると、どっちがいいのかっていうのは人それぞれだから何とも言えないけども、これからさっきの５Ｇとか通信手段も発達すれば、どこにいてもいろんな仕事ができるようになるという時代が来ると思います。その中で場所をどこにするかという選択肢がどんどん広がっていくと思うんで、地方もいいよっていうことを申し上げたい。特に東京でいうと隣近所の付き合いはほぼないからね。この前テレビ見てたらこんな事件がありました。埼玉県なんだけど

90 近いおばあさんが、リフォーム詐欺って分かる？家直しますっていう詐欺の人が訪ねて来て、何もしないのに工事やりましたってお金取っちゃう。そういう事件が起こった。それがニュースになってた。周りの人に聞いたら、「いやおかしいと思ったんですよ、あのおばあちゃん１人住まいでね、変な業者が立ち代わりいろいろ入ってね、怪しいなとは思ってたんですよね。」みんな言うわけ。でも、知ってるのに誰も声を掛けてない。助けない。近所の付き合い全くないから。そういうことが平気で起こるのが都会だと思っています。そういう面で、もし、じゃあ地方で住むことになったら、あそこのじいさん大丈夫かね、行ってみようや、ってみんなが助けるっていうことが地方の良さかなっていうふうに思います。

そういう中で電灯については、例えば限られた財源しかないけども、通学であるとか、ほんとに人通りが多いんだけど真っ暗だっていうところについては、地域で申請して上げてくれたら付けるようなことはできるんで、それは、ぜひ学校を経由でも構わないし、もしそういう結構人通りがある、利用者が多い、でも真っ暗で危ないという声が複数あるんであればそういうのは相談してみたらどうかなと思います。

### ３．人口減少に伴う地域活性化対策について

現在愛媛県においては少子高齢化、人口減少が進んでいる。長浜地域においてもそれを実感する。

私が通う長浜高校には全国的にも珍しい水族館部がある。以前長浜にあった水族館が老朽化のために取り壊されたが、地域の方の声があり、高校内で水族館をつくり今年で 20 周年目を迎えることができた。この長高水族館は地域を盛り上げるために頑張っているが、さらに地域全体で盛り上げていけたらいいと考えているが、私たち高校生の力だけでは限度があると感じている。

そこで愛媛県として県全体の地域活性化に対して、これからどのような取組み、支援をしていくのか教えていただきたい。

**【知事】**

まず長高水族館は何度も行かしてもらいましたけども、３年前だったかな世界大会で入賞して、一躍脚光を浴びたクマノミのイソギンチャクに刺されない習性を活用して、その解析を行い、今ではそれを延長してクラゲに刺されないクリームの発売まで漕ぎ着けたという、そんな実績をつくってくれました。そういうことでやっていくと思わぬ助っ人も登場するんです。例えば、実は世界大会で入賞したんで県から水槽を、クラゲの研究用の水槽を副賞としてプレゼントした経緯があるんですけども、県だけでなくて、それだったら薬品、クラゲのクリームまで持っていきたいんだったらっていうことで、新居浜市、東の新居浜市に小林製薬さんという会社がある、これはとても大きな会社でいろんなものをつくってます。そこの社長さんに、実は地域は全く遠い長浜の話なんだけども、こんな取組みをしている学校があるんです。ついては製薬にもつながるんだったら何か少しお手伝いしてくれませんかっていう話をしたら、新居浜は遠いからなと言って、なかなかいい返事はなかった。でも多少はやりますよって言ってくれたんで、じゃあ１回生徒さん行ってくれないかって言ったら、その生徒さんの熱意にひかれて長高に行くことになった。長高行ってまた皆さんの思いを聞いて電話かかってきた。「もう感動した。」と。「絶対やる。」と。「何やってくれる。」って言ったら、「うちからも水槽プレゼントする。」とか言って何十万とする水槽贈ってくれたりと、それ２つ置いてあるでしょ。ありますか？。そういう思いっていうのは、地域から外へ出て多くの人たちを感動させて力を貸してくれることにつながることもあるので、ぜひバトンタッチしながら伝統を大事にしていってもらいたいなというふうに思います。

地域の活性化っていうのは、例えば１つの地域を元気にしたい場合、究極的には２つになると

思うんだけども、１つは、そのエリアでつくられているもの、あるいはサービスを外に向かって売る、それでお金が入って来るというやり方。もう１つの方法は、外から人に来てもらってそこで消費をしてもらう、お金を落としてもらう、で潤うという。前者は物を売るという営業活動。後者は人に来てもらってお金を落とすっていうふうになると観光振興です。こういうことになるんです。地域によって特色が違うんで、じゃあこの地域はどこに焦点を当ててやってくのかって絞り込みが必要になるわけですね。

そうだね、長浜でいうならば、これは双海との連携にもなるけども非常にいい自然があるんでね。例えば海沿いの夕日の風景であるとか、あるいはサイクリングロードであるとか、絶景のコースなんだね。しかも終点が長浜になるのが赤橋という存在もあるし、今、大洲は長浜の赤橋もあれば、大洲市の臥龍山荘もあれば、ほんとに文化財の宝庫になるんで、あそこの肱川のお宮の参龍殿、あれすごいよね。ああいうのどんどん生かしていったらいいのになっていうんで、今お手伝いしてるんだけども、そのほかにも鵜飼い船があったり、冨士山があったり、大洲だけでもいろんなものある。そういうものを、実は地域の人があまりその価値に気付いてないケースもあると思う。

僕は松山市の仕事をしているときに、みんなよその町はええからなってすぐ言う。それじゃ駄目なんだと。例えばここに会社がありました。その地域の人たちが、いやうちの町は大したことないよと、あっちのほうがいいよっていう市民しかいなかったら、その町に人来る？来ないよね。うちの町ええで。会社もそうだけど、うちの商品はええよ。うちの会社はサービスええよ。そういう人たちで成り立ってるから会社は発展するんであって、町も同じだと思う。だから、その町の価値にどれだけ住んでる人が気付いて、磨いて魅力をビジネスにするか。まず何よりも活性化の問題のいの一番に大事なとこじゃないかなというふうに思います。

もう１回戻すと、さっきのサイクリングコースもあれば、例えば赤橋なんかは肱川あらしが発生するところで、肱川あらし、だいたい気象予報で予測が立つようになったけども、場合によっては、あらし見に来たのに今日は出んかったっていう人もいるわけ。それこそいい。南予のオーロラ作戦と名付けたんだけど、あなたは幸運であれば見えます。幸運じゃなかったら見えない。見えない場合はまたのお越しをって、なかなか見れないところに価値が出てくるっていうやり方もあるよ。そういうのは考えようじゃないかなと思うんだけども、そういう自分たちの町の魅力に気付き、それを磨くためにはどういうアプローチをしたらいいかっていうのを徹底的にみんなで議論して追求していくと答えが見えてくるんじゃないかなと。また、今伊予灘ものがたり、ＪＲの列車は大人気で搭乗率が 90％超えてるんだけども、これも下灘の駅には日本で最も海岸線と駅が近いところにあるという、その風景にみんなが引き寄せられる。決して早くはない、ゆっくり走るから価値が出てきた。大洲に着くと鉄砲隊が歓迎してくれたり、そういうおもてなしが伝わる。その人たちが今の時代はＳＮＳで、こういうすぐれた風景があった、いいよ、いいよって拡散してまた人が来る。こういうことにつながっていくんで、答えになってるか分かんないけども。

まず観光という側面でいうならば、今住んでる人たちが自分たちの地域の魅力に目を向けているか、それを発信できるという行動を起こしているか。ここが大事。その上で、それぞれのコンテンツを売るために、ＰＲするために、どういうアプローチをしたらいいんだろうかという戦略をつくるということで、観光振興というのがひとつ生まれてくるというふうに思います。

物を売るということに関しては、これは県庁がお手伝いするところで、例えば長浜だけで何かつくっているもの、物を売ろうとしてもどこに言ったらいいか分からない。小っちゃい個人が言っても、なかなか企業さんが振り向いてくれないとかそういう悩みがある。そこで、その役割を愛媛県がやりましょう。たまたま商社というところにいたんで、そのノウハウを社会人時代に蓄積してきたんで、それを県庁でやってみようと思ってつくったのが愛媛県庁の営業本部という組織なんだけども、この県庁の組織はちょっと異質で、普通役所の職員って県庁の中で仕事してる

人が多いんだけども、ほとんどいません。いたら仕事にならない。全国各地、世界飛び回って、販路拡大死に物狂いでやる。こういうのが県庁の営業本部、日常の仕事になってます。そこで県が出てくることによって信用度が生まれるんで、そこに皆さん乗っかってくれる。県が出て来るから向こうも出て来ます。そこでつないで、さあビジネスの話し合いを進めてくださいっていうのが、向こうも普通だったら若手の担当者が出て相手をしてくれないようなところも、県が前に出て来ることによって、ちゃんとした人がしっかりと話を聞いてくれるという商談会ができる。そんなことで物を売るお手伝いをする。これも地域活性化につながるかなというふうに思います。

長浜なんか特に僕の印象では、しぐれのおいしい店がたくさんあったり、それからフグだ。フグ。すごいね。そこの３軒ぐらいあるかな。あの商店街に。あっこのフグは愛媛で一番うまいよ。最近ちょっと行けてないんだけども、頑固なおやじさんがいてね、フグは２週間前の予約がないと受けないと。頑固なおやじがいるんです。何でって聞いたら一番おいしい出し方は取って２週間水槽に泳がす。その上で出すのが一番うまいんだから、２週間前うちに予約入れてくれないと一番うまいの出せんけんそういう客は取らん。それがまたね、うわさがうわさを呼んでおもろいって言ってファンが生まれてくる。何が何だか分かんないな。そんな地域の宝を大事にしてください。

**４．ｅスポーツの普及について**

ゲームというとあまり印象が良くないかもしれないが、みんなが楽しみながらできる競技で、身体が不自由な方でも取組みやすいものだと思う。最近ではｅスポーツにはやりが見られ、今年の茨城国体では実際に競技として採用されている。また、県内ではえひめｅ－Ｂａｓｅｂａｌｌ大会が今年から開催され、愛媛県ｅスポーツ連合が設立されました。愛媛県全体でｅスポーツを広め、愛媛マラソンと同様にｅスポーツを全国に発信していけば愛媛県としてさらに盛り上がると思うがどうか。

**【知事】**

ｅスポーツは２年前にえひめ国体・えひめ大会をやったときに、次なることを考えて実はスポーツをどう生かしていったらいいのかをテーマにやってきました。スポーツっていうのは、今日は運動部の子もいると思うけれども、もちろん、する楽しさとか、でもそれだけじゃない。応援する楽しさもある。それから、見る楽しさもある。ただ見るのも楽しい。それから、ボランティアがあるから支援する楽しさがある。それはえひめ国体・えひめ大会に関わった多くの人が感じ取ってくれたんじゃないかなというふうに思います。

スポーツということについて最初は野球からだったんだけども、コナミという会社に行きまして、ｅスポーツの現状というのは３年前に聞いてきたんです。すごい進化してる。リアルな画面で非常に僕らのころのアナログの野球盤の時代とは全然違って、ほんとにリアルな野球が体験できるような、そんなことが生まれているんで驚いた記憶があります。これを逆にどう活用するかということを考えていくと、世界的なｅスポーツが普及し始めている動向をキャッチする。もう１つはさっきのするだけじゃない楽しみ方。ｅスポーツでスポーツに関わって、今までやったことなかったけどルールがこれで分かった。実際やってみようというスポーツ人口への入り口としてのｅスポーツの捉え方。それからもう１つはバリアフリー。これ、障がい者の方々との同じ土俵での楽しみ方が広がっていくんじゃないかということと、この３点でいくとやるべきだなと思ったんで、ベースボールの要素を入れながら、これから連合会をつくったんで、いろんなサッカーだとかそういう競技にも拡大していけばいいんじゃないかなと、今の国体での採用、世界大会での設置等々考えると急速に拡大していく可能性があるので、しっかりとフォローしていきたいと思います。

## ５．愛媛県の森林資源の活用について

周りに森林資源がたくさんあるので、知事に森林資源についてお聞きしたい。
私たちは高校で起業家教育プログラムの一環で森林の６次産業化や、森林資源を使った町のデザインについて高校で取り組んでいるが、愛媛の森林資源をこれからどのように活用していきたいのか、お聞きしたい。

**【知事】**

愛媛県は県の全体の面積の 70%が森林なんですね。そういう意味ではすごく森林資源に恵まれている地域だと思います。ただ、ここ 10 年ぐらい前までは、外材、アメリカやヨーロッパからの外材、価格が安かったんで実はそれに押されてなかなか売れない。国産材が売れないという時期がずっと続いてました。価格が安くなったんで、外材に引っ張られてね。それで、どうしょうかっていう人たちが増えてきた実態があります。ただそうは言っても、森林の面積が多い愛媛県としては、絶対にこれは育てていかなきゃいけないというのが基本にあります。そこで、今愛媛県では、林業躍進プロジェクトというのを５年前から起こしていて、計画的に伐採し市場に出すというのを、県が取り組んでいます。どういうことかって言うと、今までは間伐、主流になる木じゃなくて、その間伐で取った木材を中心に市場に出してたんですけど、今、一番育ちの良かったところが、ちょうど出荷期を迎えようとしてるんですね。そこで、主伐、間伐じゃなくて主伐をやろうと。ただ主伐をやって森林が荒れ果てた地域も全国にはあるんです。切っちゃったらもうはい終わり。間伐の場合は木が残ってるんで全然いい。その木を育てるために間伐やるから全然問題ない。主伐をやってそのまんましたら山は死んでいくんです。愛媛県はそこで、主伐はやるけれども放置はしないでくれと。主伐をした場合は植林してください。次なるものを。そこに助成します、というルールをつくりました。それだったらというんで一気に主伐が始まったんです。一番形のいい、サイズ的にもいい木材が出せるようになって、しかも外材が高くなってきて十分勝負ができるようになってきた。例えば立方メートル当たりですね、檜も杉も 10,000 円ぐらいが採算ライン。一時はこれを切ってたんです。今は杉が 11,000 円ぐらいで採算ラインを上回ってる。檜が 15,000 円ぐらいで十分採算ラインを上回った。ですから、これは非常に時期を迎えたなということで出荷量増やしてます。ただし、次のことを考えて再造林をしっかり行うことが大事だと思います。

もう１つは、木材の需要をつくり出す。需要があれば売れます。新たな展開をやろうということで、新しい工法ＣＬＴ、新しい分野にチャレンジしてます。ＣＬＴっていうのはどういうものか。普通集成材っていうのは、木を重ね合わせる。今までの集成材っていうのは、同じ木を同じ列にずっとおさまらせていくっていうのが日本でいう売り出し方だったんだけれども、ＣＬＴっていうのはこれをクロスさせる。クロスさせるっていう技術なんです。そうすると強度が圧倒的に上がります。中に使う木は少しぼろくても十分、用途のために見てくれじゃなくても中の強度に使いますから、それらが使えるいうことで、これこそチャンスじゃないか。徹底的に今やってます。世界的にもこれが普及し始めて、日本も、ほとんど初段階の基準は出してる。何が違うかというと、新しいＣＬＴ工法使うと木造で海外では 10 階建てのビルなんです。それぐらい強度が出る。恐らく日本では５階ぐらいまでの認可になるのかもしれない。それでも、もしそれが認可されて需要が出てきたら、ものすごい量のオーダーが、市場ができるっていう可能性があるんで、そんなこと言ってたらそのために民間企業とのタイアップが必要になりました。今このＣＬＴの大きな工場が日本国内に３カ所あります。鹿児島県と岡山県、そして去年愛媛県にできた。小っちゃいところはある。ほんとに一貫体制で生産できるところは愛媛県だけなんです。これは愛媛県が持ってる西条市のなかなか売れなかった土地を提供して、県内の木材製材会社がそこに

大きな投資をして、ＣＬＴが一貫体制でつくれるような新たな工場がスタートしました。ここはこれからほんとに、ここが稼働しなければ全県の木材そこに持っていけるように、そういう活動の仕方が１つある。それからもう１つは環境問題絡んでくるんだけども、木材チップを使った発電。これも少しずつ増えてきてるんで、こういったことについての需要をつくり出すということをしっかりやっていくことが大事な気がします。ということで、林業躍進プロジェクトで山と生産の現場の後押しをしてること。それからＣＬＴや電力でグループ側のお手伝いをしてる。この双方によってその木材業界を成長させたいなというふうに思います。そのために、例えば新たな公の施設をつくるときには、ちょっとまた単価が上がってくるので、その分補助金を県のほうで出すんでＣＬＴを使って建ててくださいとかいう呼び掛けを今やってるんで、これから愛媛県内の公の建物はこうした県内の施設、木材を活用した、しかもＣＬＴという新たな工法を活用した建物が徐々に増えていくと思います。それともう１つは、これは木材業界について申し上げたんだけども、知事になってすぐ木材の関係者が来た。申し上げたのは「愛媛県っていうのは森林県だとは思うけれども知名度がない。例えば杉といえば全国で有名なのは秋田杉と屋久杉。これはもうどこの県の人でも知ってる。でも愛媛の杉って、ああそうなんですかっていう存在。檜でいえば木曽檜は全国どこの人でも知ってるのと、愛媛檜が生産量日本一なんですが愛媛県民だって知らない。ほんとにって言われる。現実です。その理由は名前、ブランド名がないからというのもあるんじゃないんですか。」って申し上げた。「ある程度の規格がクリアしたものについては、ブランド名付けたらどうですか。例えば「媛すぎ」とか「媛ひのき」とかそういう名前でも何でもいいから付けたらどうですか。」って、１、２カ月してまた来られて、「この前の提案、議論してやることにしました。」それで「名前何にしたんですか。」って聞いたら「知事が言った「媛すぎ・媛ひのき」そのまま使わしてもらいます。」って言って、今愛媛県のブランドの木材は「媛すぎ・媛ひのき」という名前で全国デビューになりました。

**６．地域資源を生かした魅力発信について**

地域活性化活動の更なる発展について質問したい。

地域を活性化するためには、その地域の魅力を市内外の方、県内外へ発信することが重要だと考えている。本校には、檜があるが、西予市産檜のかんなくずを使ってつくられる、かんなフラワーをつくる活動に力を入れている。地元の大工さんやフラワーアレンジメントの先生の知恵や技術により生まれたかんなフラワーを、高校生が普及することで、多くの方々に三瓶町や西予市に興味を持ってもらいたいと思っている。かんなフラワーはこのようなコサージュ。これは時間が経っていますが、本来ならすごく木のいい香りがしてくる。現在は地元の老人ホームに出向き利用者さんと一緒にかんなフラワーをつくったり、地元の夏祭りや町内のイベント、県外で行われたサミットで講習会を開いたりするなど、町内はもちろん県外でも普及活動を行っている。

しかし、最近では高校生によるこの普及活動に限界を感じており、西予市外でもアピールが不十分なのではないかと思っている。私たちは、地域の人々と協力してかんなフラワーを全国的にアピールしたいと考えており、このことについて、知事のご意見をお聞かせいただきたい。

**【知事】**

愛媛県にはかんなの削りコンテストで、全国チャンピオンになった人が２人出ました。その１人が確か西予市。彼はこの南予の方なんで、それはそれはもうよくぞここまで薄く削れるもんだなというテクニックを持っています。彼はそれだけに留まることなく、かんなフラワーを当時からつくってこういうのやりたいなということを言われてたんで、多分そことの関係もあるのかなという気もいたします。素材はいくらでも豊富にある。それを伝統工芸まで進化させる取組みは大いに賛同したいし、応援してあげたいなというふうに思ってます。

問題は、どんな伝統工芸品も共通して、どう売ったらいいか分からないっていうのが共通の声なんですね。そこでさっきの営業本部の出番になってくるんだけど、僕が就任してすぐ考えたのがまず第１弾、「スゴ技データベース」。これは愛媛県の中小企業の技術力をカタログ化したデータベース。宇宙船の部品作ってたり、いろんな会社が愛媛県内にあって知られざる会社が載ってます。誰が見てもすぐ分かるようにっていうことで、営業本部の販売するときのカタログをつくってます。スゴ技の次の第２弾が「すご味データベース」。これは食。柑橘から魚から野菜からコメから愛媛県のおいしいものをてんこ盛りしたデータベースです。そして問題はその３つ目。今度は第３弾「すごモノ」。これが伝統工芸品バージョンなんです。例えば、愛媛県内にも伝統工芸品って言えば、東からいくと四国中央市には水引細工。お祝い袋ののしみたいなね、つくってるんだけども、今日本で水引細工をつくってる町は２カ所しかありません。１つは長野県飯田市というところ。もう１つが愛媛県の四国中央市。だからとても大事な伝統工芸なんです。だから隣の新居浜行くと、さっきの銅の町なんでそこを活用した伝統工芸が生まれて、銅板レリーフっていう伝統工芸品があります。銅板を使った大きな彫刻、その工芸士が今のとこ２人だけかなと思いますが、西条に行くと西条まつり、太鼓台を装飾するための彫り師、木の彫り師とか提灯屋さん、こういうのが伝統工芸でもあります。今治に行くと、これは言わずと知れた菊間瓦。瓦。ただここも大変なのは、瓦って昔は家に使うものなので、それだけでは、なかなか今木造瓦葺きの家というのは少なくなったので苦しいと。この伝統技術を、例えば家のインテリアに持っていったらどうなのか。こういうことにチャレンジしてる人たちがいるんで、こういう伝統工芸品があります。同じく今治には漆を使った桜井漆器という。中予に入ってくると、何と言っても砥部焼という伝統工芸品が 100 ぐらいの窯元で頑張ってる。大洲に行くと和紙、内子、大洲は和紙の伝統工芸がしっかりと根付いていて、最近ではキルト、金粉を使ったキルトを使った和紙の、なんか海外に持っていくような人が生まれてるんで結構若い人がいます。そういう中に今言ったような、かんなフラワーもぜひ入ってきてほしいなあと思って、じゃあまずそのかんなフラワーというのを、物を売るときに大事なのはマーケティングなんで、どういう年代であるとか、どういう人たちが関心を持つかということは十分戦略を練って、じゃあその人たちに届くようにするためには、どういうＰＲ手段を使ったらいいのかっていうのを考える。そしてそれに基づいて西予市も巻き込んで、例えば大きな展示会に出るのも１つの方法だし、それからデジタルプロモーションでユーチューブなんかも活用して広めていく。当たりはずれはあるけれども、そういう戦略もありだし、そしてまた、この愛媛のすごモノの伝統工芸とのコラボ。例えば、ほかの愛媛県内の伝統工芸とかんなフラワーを組み合わせると。そういう発想もあってもいいし、議論するとたくさんあると思います。そういう中で磨いていってほしいなと思いますので、ぜひその節は、「すごモノ」に掲載したいというふうにチャレンジして、一応審査員の人がチェックするらしいんだけど、それをクリアしたことによって、これを持って愛媛県の営業本部の職員いろんなとこ売り込みに行ってるから、それを活用したらいいんじゃないかなというふうに思います。以上です。

**７．南予の生徒減少対策について**

来年度から南予では２校が分校となる。松山方面に生徒が行き、南予のほとんどの高校は定員割れしている状況。本校も、来年 100 周年ということで、どうにか生徒集めて盛り上げようとしているが、やはり人数が少ないのでできることが限られてくる。

このままこの状況が進んでいくと、本校を含め南予の高校が勢いがなくなり、若い世代の勢いがなくなると、地域の勢いがなくなっていくと思うが、南予の高校の生徒の人数が少なくなっていく状況をどうお考えかお伺いしたい。

**【知事】**

まず１つには、さっき冒頭にお話ししたとおりに人口減少が一番の問題だと思うんです。一体どれぐらい減少したかってあまり実感がないと思う。かつて一番多いとき、１年間に日本人の赤ちゃんは 270 万人産まれました。270 万人。今年は 90、100 万人切るということは３分の１近くになってしまう。これは南予だけでなく全国同じ状況になります。都道府県で見ても、47 都道府県があって人口が増えているのは、県で言えば東京都だけ。あとは全部減ってるんですよね。大阪ですらね。これが今の日本の社会の実態になります。だから、実は子どもさんが増えないと抜本的な解消はできないということは間違いないんで、その出生率のサポートをどうすれば上げられるかっていろんな手立てを今試行しております。

もう１つは、実は数年前までは、もう数年前までにあったルールだと、とうの昔に別に南予だけじゃなくて、東予も含めて数校そうだったんで、でもそれはいくら何でもって思ったんで、チャレンジ制度というものをつくりました。３年連続定員が割れてしまうと募集ストップになるんだけども、２年連続で定員割れしても３年目に１人でもクリアしてくれたら、また３年延びる。こういう制度にしたんです。実はこの制度を生かして頑張ってる地域いくらでもあります。今年も松山市の中島分校、それから今治の大三島の分校。地域総掛かりであの手この手使って生徒を募集してクリアしました。またリセットですから３年は大丈夫。これ抜本的な解決にはならないんだけども、それで地域の一体感、ある意味では活性化に結び付く面もあったということを聞いてます。ぜひ大事なことは、こんな学校だ。こんなところがすごくいいらしいっていうか、個性っていうか、そういうメッセージを実際につくって発信していくっていうのがすごく大事なことなんでやるということと、もう１つは地域の皆さんと一緒になってアクションをしていくということ、地域を残していかなければならない、そういったうねりを起こしていくっていうことをやるっていうのが今の時点では重要だなと思います。例えばさっき長高の話になったけども、長高の水族館部が世に出たことによって長浜以外の子どもたちが長浜に来始めた。あるいは、ある学校の吹奏楽部がすごいんですっていって、その吹奏楽部に憧れて、ほかの町から絶対にあそこの吹奏楽部に行くんだって松山からそっち向いて行く、そういう流れも来てるんです。抜本的な解決には時間がかかると思うけども、今できることっていうのは学校の個性をみんなでつくろう。らしさというものをどんどん出していって、その上で地域の皆さん学校の灯を消さないためにみんなで力を合わせましょうってウェーブを起こして、ぜひそれにチャレンジしてもらいたいと思います。

## ８．地域活性化のための広域的な高校生の活動について

私が住んでいる八幡浜市では、商店街や施設などが活気がなくなってきてるのではないかと強く感じている。これにはやはり過疎化が背景にあり、このような現状に直面している地域は、八幡浜市に限らずほかにも多いのではないかと考えている。

八幡浜市に限らず各地域の問題を解決するために、その地域に住む高校生や、大人だけではなく愛媛県下の高校生が集まり、議論したり行動することを行えばいいのではないかと考える。そうすることにより、高校生ならではのさまざまなアイディアが生まれるとともに、人脈ネットワークを広げることができ、将来にかけても、人と人との結び付きという形で生きてくるのではないかと思うが、ご意見をお伺いしたい。

**【知事】**

今、逆に例えば学校同士の交流っていうのはあまりないのかな。生徒会でもそういう交流みたいなのは。ないの？

**（参加者）**

各校の生徒が集まって何かをするという機会もあまりないような感じがしています。

**【知事】**

もちろん、それとてもいいことなんだけども、地理的な問題もあるんでね。例えば全県でやるとなかなか難しいのかなというふうな思いもあるけれども、南予であるとか東予であるとか中予であるとか、そういうブロックで何かを一緒にやるっていうような話し合いも含めて、あるいはイベントなんかも含めてやるほうが現実的なのかなという気はするけれども、そういう形だったら県もバックアップできるんじゃないかなというふうに思います。あるいは、県も、高校生に参加しないっていう、全校一斉に参加しないという、結構いろんな事業やってるんですね。特に文化事業、スポーツは当たり前なんで地方ごとにあるんで、文化事業に力を入れてます。

１つが「愛顔感動ものがたり」っていうイベントを５年前からやってるんだけども、これ何やるかっていうと、人それぞれ人生の景色が違うしエキスも違うんだけども、それぞれの個人の実話に基づく愛顔になる感動的なエピソードを募集しますっていう事業なんです。800 字以内で表すようなエピソードを募集するという事業なんだけれども、結構豪華バージョンで審査委員は「千の風になって」っていう曲をつくった新井満さんていう人、それからもう皆さんの世代分かんないかもしれないけど、女優さんで紺野美沙子さんっていう人。それからアニメの声優で愛媛県出身で全国的に頑張ってる水樹奈々さんていう、そういうメンバーでみんな参加してくれて毎年やってるんですね。高校生以下の部門っていうのがある。愛媛県下の高校生からもものすごくいい作品。去年は大洲高校とか、その前は八幡浜の子だったかな。思わず泣いてしまうような作品を寄せてくれるんでね。最優秀の賞は、水樹奈々さんが声優だから朗読をして画像付きで県庁のホームページで全国配信するっていうなことになってるんだけども、こういう形で高校生全員参加やってみないっていう内容のものが１つの事業。

２つ目はえひめこどもの城っていうのが砥部にあって、ここを視察したときに広大な空間があるなと思ったんで、ここで若者の芸術祭をやろうということ、これは３年前から始めました。最初の回の最優秀作は三崎高校の作品で、このときは海岸に流れ着く廃棄物を素材に活用をして芸術作品をつくるという、環境と絡めたテーマの作品はすごい作品なんですね。これも、ほとんどの高校に呼び掛けています。何と言うのかな、その作品の優秀作は広大な敷地があるんで常設展示されます。だから、第１回からの作品もこどもの城に常設展示されてるんだけども、こういう試みを呼び掛けているのが２つ目。

３つ目は数年前からなんだけども、県民総合文化祭のメイン事業である総合フェスティバルを高校と合同でやりましょうということにしました。そのときの運営は司会から何から全部高校生にやってもらったというようなことまでしてるんだけども、要は何が言いたいかっていうと、こうした県の事業をやるということで呼び掛けて参加が広まったら、運営もやってみないかというとこまでもっていけないかなと、そしたら横のつながり、みんなで何かできるねっていう人脈の形成にもつながるし、学校同士の交流にもつながるかなというように思っているんで、こうした既存の県の事業を調べて、それに参画していろんなネットワークで何かをするっていうようなアプローチもあるなというふうに思います。学校の先生次第というところもあるんだけども、県はそういう声があれば応援するのはやぶさかではないんで、ぜひ全県的だとあれなんで、今言ったようにエリアちょっと決めてやってみるとか、あるいは県の事業に乗っかってやってみるっていうところが、現実的ではないかなというふうに今のお話を感じてそんなことを考えてみたらどうかと思います。

**≪補足説明≫〔教育委員会〕**

東中南予の３会場で高校生による地域活性化ディスカッション等を「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」として今年度開催しました。

（日時・場所）

東予：令和２年１月 28 日（火）

西条市総合文化会館
中予：令和２年１月 24 日（金）
松山市総合コミュニティーセンター
南予：令和２年２月　４日（火）
西予市宇和文化会館
また、来年度以降についても実施する方向で検討しております。

**９．高校生が地域活性化に取り組む意義と魅力ある学校について**

本校では地域活性化活動に積極的に取り組んでいるが、高校生が地域活性化活動に取り組むことの意義とはどういうことか。
また、知事にとって魅力ある学校とはどういう学校なのか、お伺いしたい。

**【知事】**
ちなみにさっきのこども芸術祭第１回最優秀賞、見ました？
**（参加者）**
登龍門のことですよね。３つ上の先輩が。
**【知事】**
あれはね、すごい印象的な作品でしたね。第１回にふさわしい最優秀作品で、次なる作品も待ってます。
魅力的な高校ともう１個何だっけ。
**（参加者）**
高校生が地域活性化活動に取り組む意義です。
**【知事】**
そうね、正直言って僕が高校時代振り返ってそういうことできたかというとできてないと思うんで、今も逆にいろんなことやれば良かったなというふうな後悔の念があります。地域の活動に参加するっていうことは、やっぱりさっきの最初の話に戻るんだけども、地域の良さを知るきっかけにもなるんじゃないかなと、人のつながりも含めて、そういう活動の中で思わぬ新しいふるさとの知識を手に入れる機会になろうかと思うので、ほんとに高校だけの中で閉じこもることを超えて、地域の大人の人たちと接することによっていろんな思考の土俵が広がっていくことには間違いなくつながると思います。それともう１つは、ボランティアが多いと思うんだけども、そういう行為が多くの人を幸せにする笑顔になる、そういうことにつながるという実体験が待ってると思うんで、それをチャレンジをする、物事に何か一生懸命に取り組む動機付けにもつながっていくと思いますから、その経験を多感な時代に経験するというのがいいことじゃないかなというふうに思います。地域活動もそうですし、あるいは、せっかくね若い時代なんだから、ほんとにいろんな経験したらいいと思うのね。例えばお小遣いためて、こういうの我慢して、今安い方法ができたんで、みんなで修学旅行も含めて海外経験してみようとか。松山空港から飛ぶようになってるから、そういうのにチャレンジすることもよし、『見聞を広めて、そして自分探しをする』というのは高校時代の一番大きなポイントになると思いますんで、その中でいろんな経験があったほうが、その意味合いから地域活動に参加というのは決して無駄ではないというふうに思います。
魅力がある高校っていうのはどうなんだろうね。逆にそれはみんなが探していくんじゃないかな。やっぱりこういう伝統があるっていうことをしっかり打ち出せるっていうのはすごくよく見えるっていうね。例えばさっきの長浜もそうだし何でもいいと思うけども、あの高校にはこういう特色があると。そういう学校の卒業生なのか、在校生になったっていうふうに見られるんで、

いい学校っていうのは個性、オリジナルな個性があるっていうことなんじゃないかな。地域だけではなくてね。そういうもんではないかというふうには思うんだけども、漠然とした答えにしかならないんだけどもそんなところかなと思います。

**（参加者）**

ありがとうございます。

**【知事】**

さっき、募集停止の状況を訊かれたけど、文部科学省事業の認定を受けチャンスが生まれたんで、ぜひ生かしてほしいなと思います。

## 10. 高校生のグローバル化について県に期待すること

最近になってグローバル化が進んで、さっき知事も話されたように海外への経験が増えて、僕の同級生にも海外への留学や海外旅行を経験した人が増えてきて、僕も去年のちょうど今ごろにイギリスに行って、実際に向こうの人と触れ合ったり一緒にサッカーをしたりして、物事をポジティブに捉えたり笑顔で楽しく過ごすことが大事だなって、いろんなことを経験してきたんですけど、県外や海外への挑戦というのは、自分が普段の生活では気付かないようなことやいろんなことに気付かせてくれると思います。

でも南予には、愛媛県のみならず全国的にも、まだこういう経験をしている人は、まだまだ海外に比べると少ないんではないかなと思う。特に愛媛県に関しては、本州と橋は一応つながってるんですけど陸続きでないためか、そういった経験が特に他県に比べて少ないと思う。どのようにすれば県外や海外の挑戦が増えて、高校生がもっと人間的に成長できていくと思われるか、お伺いしたい。

**【知事】**

僕は商社に入ってから海外が多かったんだけども、実は学生時代運動ばっかりだったんで行く機会なかったんですよ。大学を卒業する最後に１カ月、無鉄砲にも１カ月弱放浪の旅に無計画にアメリカに行ったことがある。もうえらい目に遭ったけど、そういうのが今生きてるのかなという気がしますね。商社に入ってから十数箇国転々としてたんだけども、それぞれの国によって考え方も文化も、もちろん言葉も違うのでビジネスのやり方も違うし、決して善人だけではなくて危ない人もたくさんいるし、そういうのも全部ひっくるめて、若いときに、別に言葉なんかあとでいいと思うんです。大事なことは異言語、異文化、異慣習そういう世の中があるんだということに触れることだけでもすごく貴重な体験になるんで、お勧めはしたいなというふうには思います。そういうことができるように今県もいろんな仕掛けをしていて、一昨年はソウル便、それから上海便があってソウル便があって、ソウル便はちょっと相手の会社の言ってくることがあんまり良くないなということで１回切りました。しっかりとした会社を見つけようということで新たな会社を探して、一昨年からソウル－松山、日韓のことで今ごたごたしてるけれども、それはそれとして民間交流は別ですから、そういうアクセスをつくりました。これはとても手ごろな値段なんです。ＬＣＣって航空会社でも、最近はフルサービスを提供する、ちょっと価格の高い航空会社もあれば、ローコストキャリア、徹底して合理化を図って、ともかく安い値段で運賃を提供できる、搭乗率でカバーしていくっていう航空会社。２つに分かれてるんですね。ソウル便についてはＬＣＣのトップの会社なんですけども、例えばそういう会社の料金体系がどういうふうになってるかって言うと、150 人の座席がその飛行機にあるとする。１カ月前から予約が開始されます。１カ月前に最初の席を押さえるとめちゃめちゃに安い。残り 149、１席埋まるごとにだんだん値段が上がっていくと。だから同じところ同じ航空会社、同じ飛行機を使って同じとこ行くのも値段が違う計算。１席目で取るか 150 席目で取るかで値段が全然違う。ちなみに松山とソウ

ルで今往復１万円以内で海外行っちゃう。スマホでまずそこに登録して入会すると、最初に入会クーポン券っていうのが送られて来るんで、今 2,000 円ということは１席目でクーポン使うと往復 4,000 円でソウル行けちゃう。こんな路線もあります。さらに愛媛県では、若い世代にそういう経験してもらいたいなあと思ったんでキャンペーンをやってます。初めてパスポートをつくって松山空港から上海、もしくは台北もしくはソウルに行く場合 5,000 円のクーポン券をプレゼントするという事業を起こしてますんで、ぜひ活用していただきたいなというふうに思います。先月７月から、これは時間がかかったんだけども、ようやく、台北と松山を結ぶ直行便が飛ぶようになりました。これはほんとにひょんなことから、今から約 20 年前に、このときにまだこの仕事してなかったときに、同じように１カ月間ちょっと失敗して何もやることがなかったんで、紙袋１つ持って中国と台湾に無計画な旅行に行ったことがある。そのときに台湾１人でぶらぶら歩いてたら、えっと思ったのが松山空港という空港名があった。なんやこれと思ったら同じ名前なんです。「この空港何なの。」って訊いたら、海外路線は桃園という空港使うんだけども国内専用の空港なんです。ちょっと小さい空港なんですっていう話だったんです。名前も同じっていいなと思ってね、頭に刻まれたんです。そのあと松山の市長の仕事いただいたときに、そうだそうだ、あそこに松山空港というのがあった。松山空港発松山空港行きっていう飛行機飛ばしてみたいなと思ったわけ。市長の立場で台湾に交渉に行ったら、けんもほろろで「国内専用だから駄目です。」というのからスタートしました。それからくじけずに７年間通い続けて、最後向こうの市長から「あんたスッポンのような人だ。」って言われたけども、「許可しましょう。」ということで今のそこは国際線にも門戸を開いたんだけど、小っちゃい空港なんで１つの国に１路線のみっていう制約が国としてかかってる。日本だから羽田空港だけなの。でも松山ー松山っていうの面白いから、同じ名前だし今までの経緯もあるんでチャーター便だけでも年に必ず２発ぐらいは認めますっていう例外措置をいただきました。そこで実績を上げてアプローチを繰り返した結果、今回桃園の空港、さっき言った元からの大きな空港だけども定期便就航につながったと。ざっと計算して 15 年のプロジェクトだったんだけども、それぐらいの粘りで路線開設に持ち込んだんで、ぜひ活用してもらいたいなというふうに思ってます。上海、中国には大国中国が驚異的なスピードで成長している状況があからさまに伝わってくる。韓国は、テレビやニュースだけ見てると、日韓関係ぐちゃぐちゃで大丈夫なのかってなるかもしれないけど、町は至って平穏で、特に若い世代はそんなああいったギスギスした感情は全然持ってないからそんなこともないし、台湾はもっともっと親日的でほんとにサイクリングが盛んで、今しまなみ海道と連携してるんだけども、とても食べ物もおいしいし少し安い町なんで、その違いをぜひ体験してもらいたいなというふうに思います。いずれにしましてもアジアの国の若い子たち、ほんとにギラギラしてるから、例えば今日本人は１億２千万人、さっき申し上げたけども、日本人の平均年齢っていうのは今 47 から 48 歳だと思います。インドネシアの人口２億６千万人で平均年齢は 31 歳なんです。ベトナムが人口９千万人で平均年齢が 31 歳なんです。フィリピンが１億人で国民の平均年齢は 24 歳。完全なピラミッド型社会。昔の日本のようなね。この層が追い付け追い越せってギラギラギラギラしながらがむしゃらにやってきますから、ある意味では、皆さんの世代だと相当いい意味で競い合いもしなきゃいけないんで、ぜひ頑張ってほしいというふうに思います。まだまだ日本はこれまで培ってきた技術力、それから品質管理、それから経済力、それはもう全然日本のほうが上なんで、その力を大いに生かして、次に皆さんの世代でさらに羽ばたいてほしいなというふうに思います。以上です。

## 11. 高齢化社会における介護人材の確保について

本校には福祉サービス系列というものがあり、地域の福祉人材を育てるための教育を実施していて、国家資格でもある介護福祉士の取得を目指している。高校在学中に計 52 日間の高齢者福祉施設などに実習に行き、仕事の厳しさなども分かった上で就職をするようにしている。去年はこの介護福祉士の国家試験を受験した 16 人全員が合格できた。しかし、この 16 人という人数では、地域の福祉人材の需要を満たし切れていないのが現状。福祉の仕事は、最初に知事がおっしゃられたように、将来有望な仕事でもあり、やりがいがあるものだと思うが、将来福祉の仕事に携わろうとする意欲のある高校生は、この地域だけで見るとあまり多くないように感じる。

そのような福祉に関わる意欲のある高校生をもっと増やすためにも、本校のような福祉に関わる人材を育てるコースのある学校がもっと愛媛県下にもあったらいいと思うが、知事のお考えをお聞かせください。

**【知事】**

日本は超高齢化社会に向かって今進んでいるんで、福祉、特に介護職のニーズも全然足らないということはもう目に見えていますよね。ということはですよ、逆転の発想なんだけども、それだけ必要とする人たちが増える。マーケットができるということは、今さっき話あったように業種としては伸びていく業種かなと。それから、そのあたりをまず長期的な視点で捉えていける人たちが増えてくればいいなというふうに思うのと、それから日本の介護水準ていうのは世界的に見てもものすごい高いんですよ。

この前、今年５月に中国に行ってきました。中国の大連というところと瀋陽というところにちょっと仕事で行ってきたんだけども、向こうからも、ぜひ連携させてもらいたいところなのが介護実習なんですよ。もう日本の介護実習学びたいと。中国のその地域の教授を連れて行きました。愛媛県と介護実習に関わる交流がこれからどんどん増えていくと思います。やがてはその中で日本でやりたいっていうことが出てくると思うんで、そんなところにつなげたいなというふうに思います。日本人だけでは全然足らないと思うので、まさにこの分野っていうのはさらに国際交流が必要になってくるのかなというふうに思いました。

ところが、今まで日本はこういう人たちを受け入れる素地を全くつくってなかったんです。例えば技術研修員という名目で介護を勉強する業種は限られてくるでしょ。日本でその働きたいっていうたくさんいるんですよね。でもそのためには、今言った試験をクリアしてもらわないと駄目です。介護の現場っていうのはそう複雑な日本語が必要ではないんで、言葉は別でも知識さえ持ってれば仕事はできるんで、普通の日常会話に支障がなく知識があれば日本で働けるというのも十分あるんだけど、だったら試験も英語か母国語で受けさしたら受かるんです。でも、全部日本語じゃないと駄目っていうふうにしてるんです。ということは、はなっから受からせないための仕掛けなんですよね。おかしいでしょと言うんで、僕が知事という立場で全国知事会議に提案して、国に対してこれは母国語と英語で受けれるようにすべきだという提案を５年前からずっとやってました。今年から新しく始まった「特定技能」の試験では日本語だけじゃないという門戸が開いたんで、今人口構造がそういうふうな方向にいき始めると向かっていくと思います。ぜひ自分たちはそのほんとに日本の介護状況っていうのは、かゆいところまで手が届く、じゃないけども、世界が同時にそういうところまでできるんだっていうふうに見られているレベルであるということだけはぜひ知っておいてもらいたいなと思います。

## 12. 西日本豪雨を教訓とした愛媛県の豪雨対策について

昨年西日本豪雨が発生し、野村町を含め愛媛県の各地でたくさんの被害がありました。知事の最初の話の中で、防災・減災に力を入れていると言われていたが、豪雨以降、愛媛県の豪雨対策がどのようになってるか教えていただきたい。

**【知事】**

まず災害が起こったときの状況は、当時は県庁の松山にいたんですね。夜いろんな情報がどんどん入ってきました。えらいことになってるっていうのは情報の中身からみてはっきりしてたんだけど、ただ現場にいるわけじゃないんで、肌で感じるのではない、その後、広島や岡山の情報入ってきて、これはもうとんでもないことになると、１つの県だけで対応できるレベルを遥かに超えてる被害が出そうだっていうのは分かったんです。賛否両論あったけど、これ東京にいたらもっと分かんないんですよね。これは国を巻き込んでやらないと対応できないと判断して賛否両論ある中で東京行きました。東京行って総理に会ってえらいことになってますよと。東京にいたら分かんないと思った。西日本一帯がとてつもない状況になってるんです。早く国があとは任せろ、要はお金の問題。国もバックアップするっていう言質、そうすれば安心して対応に没頭できるということで言質をとるっていうのがまず最初でした。

次に災害対策本部を立ち上げて組織で対応するんだけども、こういうときは、みんなの気持ちが一定の方向で思いを共有しながら向けるかどうかによって、組織力の発揮する力が変わってくると思ってます。こんな話をしたんだけども、今から我々は県庁として災害対応に入っていくけども、地域を守るという仕事ですから、地域を守るって何を守るのかって言えば、人の命を守るという仕事、それから生活を守るという仕事、それから産業を守るという仕事、この３つの分野ちゃんとできて初めて地域は守れるんだと。まずそれは全員が共有していること。かつ、そうはいっても人間だからずるずると体力的にもメンタルもできないから、目標、第１段階の目標は人命救助。それから水の確保、それから住居流されてる人も多いんで仮住居の確保。この３つ。これが現地の対応になるんです。人の命を救うために全力を各機関が尽くす。あるいは吉田町と三間町が宇和島も大変だったんだけど、水の確保をしなければ生活はできないだろうというんで水の確保。それから住居については、だいたい３カ所、大洲、野村それから吉田町ここの３つが住居がとことんやられてるんで、少し多めでもいい、全部回んなかったっていうそんな批判は大したことないと、多めにつくっちゃえということで仮設住宅を一気にやると。この３つのことに没頭しました。

人命救助は自衛隊、警察、消防ほんとに頑張ってくれました。特に肱川に流された方もいる情報があったんで、当初の段階で濁ってる。捜せない。濁りが少し収まってからアクアラング隊を結成してもらって、肱川を 50ｋｍ川底を捜索してくれて最後高知県境で発見された。残念ながら命は失われましたけど、ほんとにあの暑さの中で頑張ってくれました。

水の問題は野村も大変だったんだけど、野村は１週間で何とか目途が立った。でも吉田の場合は浄水場が流されちゃったんでどうにもならない。水がないと何が起こるかっていったら、まず飲み水は大丈夫よね。ペットボトルとか給水車がどんどん来るので、ところが水がないと炊事ができない。洗濯ももちろん料理もできない。お風呂にも入れない。それから清掃活動ができない。何にもできない。浄水場を直すにはどうしたらいいんやっていったら、大型のろ過機が必要だっていうんで、ろ過機と動かす発電機と送るポンプ、この３つがあれば何とかなるっていうことが分かったんで、すぐに大手のメーカーにろ過機つくってくれと言ったら、今から設計すると６カ月かかりますって言われた。６カ月間水が１滴も出せないっていったら、もう知事の資格ないなっていうことでほかの方法ないのか、どっかが持ってないのかって探したら、やっぱりあるんだよね。茨城県の倉庫に２台でかいのがある。誰が持ってんのって言ったら東京都が持ってる。何で東京都が持ってるのって言ったら、東京オリンピックのスラローム競技用につくったやつが、もう完成してメーカーの倉庫に置いてある。茨城に。それだと思ったんで東京都知事に電話して、こっちに回してくれと。オリンピックまでに２年あるから今からでもつくれるじゃないの、と。こっちは背に腹は代えられないんだよ。知事さんがそういうことだったら愛媛県に回すって決断をしてくれました。すぐ持って来てくれって言ったら１カ月かかると。何でって言ったら、あま

りにもでかいので都道府県を通過するごとに通行許可証を申請して許可証を取ってもらわないと運べないというね。そんな馬鹿な。こいうときは警察と自衛隊にお願いして運んでくれって言ったら、夜中各都道府県の県警が連携して２日で吉田町に持って来てくれた。会社の企業もたまたま僕のいた会社の先輩がそこの社長やってたんで、頼むから何とか力貸してくれっていうんで総動員でやってくれて、１カ月で全世帯に水が供給できた。水が流れた瞬間の町民の皆さんの喜びの表情は僕も絶対忘れられないんだけども、水の確保。

仮設住宅で困ったのは人手がいない。愛媛県の職人さんだけではとても何百戸の仮設住宅は建てられないと。こういうときは建設業協会とか建築士会とか、愛媛県の皆さん手分けして県外の人たちに手当たり次第お願いして、北は茨城県から南は佐賀県から職人さんが意気に感じて集まって来てくれた。数百人。条件は８月いっぱいで完成さしてほしいんで、休みは８月 15 日の１日しかない。あとは突貫工事でフル回転で１カ月でやってくれって言ったら、みんながよっしゃって、それで完成したのが仮設住宅。ともかくいろんな人たちが力を合わせて第１段階をクリアできました。

ここまでクリアすると、いよいよ復興という道筋に入ってくる、今その段階に入ってます。ここで問題になったのが、農業の関係はともかく気持ちが折れてますから、もうやめるっていう人たちが続出してたんだけど、それを僕も現地に行って対話をしてバックアップをこういう形でするから、みんな立ち上がってくれというふうな話をいろんなところでやって、特に吉田町は全員がやる気になってくれて今作業に入ってます。長いところは７年かかると、でも７年後に夢を見てくれと、ピンチをチャンスに変えるんやと、７年間の月日が必要な園地については、必ず元よりもいい園地にして、高収益が上げられるような園地をつくる。それを夢見てやろうということで、みんなその間歯を食いしばって乗り越えるっていうエネルギーが、今吉田に生まれてる。野村も大洲も吉田も含めて、もう１つ鍵を握ってたのが工場と商店街。ここについてはちょっと特殊な制度になっちゃうグループ補助金っていう制度を引っ張ってきて、それを一気にその３市で展開するっていうことで今やってます。これは、もちろん率がすごい高いっていうメリットがあるんだけど、大変なのは、グループの名のとおり複数のみんなでこういう復興計画をやりますっていう計画書をつくんなきゃいけないっていうハードルが１つある。それから補助率が高いから、やっぱりお金を出す立場からしてもチェックが厳しいんで、申請する手続きがものすごく面倒くさい。こんなの大きい計画なんか立てれません。経験ありません。そんな申請細かい書類つくれませんっていう人がいっぱいいる。

それこそ県庁は、今の３市に臨時に前線基地のオフィスを構えて、今職員張り詰めてます。その職員がそこに行くときに全員集めて言ったのは、復興の鍵を握るのはこの事業なんだと。皆さんの役割は待ってちゃ駄目だということです。外へ出てって一緒になって計画をつくる手伝いをすること。それから書類を申請する受け側だけども、申請書類をつくる手伝いをしてくれと。そこまで寄り添った仕事をしてほしいって言ったら、みんな意気に感じてほんとによくやってくれてます。今月でだいたい申請全部完了すると思うんで、総額で言うと 100 億円ぐらい補助金出して全面的に支える体制を今整えてるんで、各会社つぶれてやめようと言っていた酒屋さんや醤油屋さん、商店街の皆さんもやってみるっていう気持ちで、ほんとに多少は廃業した人もいるけれども、ほんとに最小限に止められたんではないかなというふうに思ってます。これからまだまだ息の長いフォローしないといけないんで、しっかりとやっていきたいと思ってます。

## 13.「まじめえひめ」の具体的な施策と今後の展開について

今回準備したときに「まじめえひめ」という施策について知ることができた。

愛媛県民のまじめさに着目した、とてもユニークなキャッチフレーズだと思ったんですが、ホームページを見ていてあまり具体的な政策が示されてなかったので、これからどういう方向で

地域を活性化させてくれるのかとても楽しみにしている。
　今後の具体的な政策と県下での展開を教えていただきたい。

**【知事】**

　愛媛県はこれまで宣伝下手と言われていた県なんだと思うんですね。例えば愛知県と間違えられたり、そんなこともあって悔しい場面もあるんだけど、これからは、今言った情報通信技術が発達してきてるんで、これをどう生かしてプロモーションに持ち込むかっていうのは１つの戦略だと思っていますね。そこで、昨年から愛媛県庁の中にプロモーション戦略室っていう部署をつくりました。ここではデジタル技術を駆使したプロモーション活動を専門的に掘り下げていくという仕事をしてくれているんだけども、例えばユーチューブを活用したプロモーションビデオの開発は、昨年の 12 月に行った４本からなってますね。いけそうな国を絞り込んで７カ国で配信を始めました。結果的にどうだったかというと、２カ月で再生回数が２千万回を突破してます。その２千万回っていうのはちょこっと見ただけの人もたくさんいるけども、全てデータが入ってきてますね。何歳の男性か女性か、どんな人が見たかっていう。これビッグデータとして活用できるから、このデータを活用してこれからのプロモーションに生かしていくという戦略になってます。それから国内向けは、よりターゲットを絞ったやり方がいいだろうということで、愛媛県の伊予市出身の漫才師の和牛はみんなの世代だと知ってるかな。水田君っていう人が伊予市出身なんで協力を依頼したら快く引き受けてくれて、川西君と水田君が愛媛県に来て撮影してくれて歌まで歌ってくれた。「疲れたら、愛媛」っていう歌を歌ってくれて、これを配信したらやっぱり和牛って人気があるんだね。２カ月弱で 100 万回超突破した。再生回数たった２カ月弱で。今、世の中にはカラオケ大手っていうのは２社。１社のほうに話を持って行ったらいいですよって、６月、その入ってる１社のカラオケで全国配信が始まった。そしたらもう１社のほうが、それが結構評判がいいんでうちのもやりたいと言って来て、８月１日、昨日から全国配信。こうしたようなことでプロモーションしていくっていうのも１つの方法かなと思います。

　もう１つはイメージ戦略とデジタルプロモーションを融合させた戦略が、この「まじめえひめ」で、愛媛県のコンセプトっていうのはどこに求めるかっていったら、いろんな意見があるから集約するの難しいんだけども、ここはやっぱりプロに頼みました。結構その道では活躍してる方なんだけども、そのプロの目から見て愛媛県を分析してもらって、たどり着いたのが「まじめ」というコンセプトなんですね。ただ「まじめ」というと地味で、どっちかというとネガティブなイメージがあるんだけど、むしろそれをポジティブに展開するところの面白さで勝負すべきだなと。ましてや物を売るときとかそういうときについていえば「まじめ」っていうのは非常にプラスのキーワードになるというふうなことと、それから、そもそも僕らが子どものころからポンジュースの宣伝っていうのは超有名で、ほとんど東京の人でも知ってます。「愛媛のまじめなジュースです。」っていうフレーズがある。愛媛イコール「まじめ」っていうのはある世代の人にとっては浸透してるイメージなんで、そことリンクができるっていうとこもあったんで、じゃあそれでいきましょうっていうことで始まりました。

　まだ第１弾なんで、これからなんだけども、第１弾はポジティブにやっていくよというメッセージだけなんで、「まじめ」をポジティブに打ち出すとすれば「まじめ」と真逆の存在とコラボするっていうのが手っ取り早いじゃないかということで、相手になったのが「進撃の巨人」だったわけで。「進撃の巨人」は「まじめ」とは正反対のキャラだったから、あの「進撃の巨人」ですら、愛媛に来てみきゃんのおもてなしを浴びるとまじめ化してしまうという、そんなプロモーションから入っていったのが第１弾です。これからまた第２弾の戦略を練ってる最中なんで、今のところ聞いてないんだけど、次なる段階がある仕掛けが始まってくると思います。よろしくお願いします。